

新鮮な発想から、「特許」が生まれる

とつきよ



WEB版はコチラ

知財戦略

どうやって
取り組んでいるの？

環境大善 株式会社

知財レボマンガ

「新メディア
『わたしのStoryMark』
に込められた想いとは？」
(マンガ：柏原昇店)

61

2024.7.30発行

アイデアを「知財」に
変えて社会につなげる物語

未来を創造！ 発明キッズ

特集

1

特許取得で学んだ

「脱・常識」で
事業も変革！

FEATURE

光浦更紗さん & 光浦健太郎さん
(光浦醸造工業齋)

特集

2

数々の
特許取得を支えた
「人の役に立ちたい」
想いと周囲の
理解やサポート

FEATURE

嘉手納杏果さん





特集

アイデアを「知財」に変えて、社会につなげる物語

未来を創造！発明キッズ

小中学生の新鮮な発想やひたむきな探究心から生まれた発明がしばしば、周囲の理解やサポートを得て特許化されたり、商品や事業のかたちをとって社会実装に結びついたりする。未来の発明家たちやその保護者に向けて紹介する、創造のよろこびのストーリー。

日本の将来を担う小中学生に知財への関心を持ってもらえるよう、特許庁では多様な取組を実施している。創造力を高めることを目的としたWebサイト「とっぎようキッズページ」で、特許・意匠・商標について分かりやすく解説しているほか、知財の教材・参考書など、高度な内容まで含んだ参考資料を提供し、啓発につとめている。また、各府省庁が連携する「こども霞が関見学デー」から生まれた夏休みの体験型イベント「ジュニアイノベーションフェス」もコロナ禍を経て、2023年からリアルイベントを再開。地方の子どもたちとの貴重な接点となっている。

その他、全国200カ所以上の少年少女発明クラブで子どもたちに課外活動の場を提供し、「全日本学生児童発明くふう展」などの顕彰の機会を設けている公益社団法人発明協会など、さまざまな機関や企業が、子どもたちの創造性を育む活動に携わっている。



EXPERT COLUMN

生活に根ざした子どもらしいアイデアが特許化された事例が数多くあります

「わが子の発明の特許化」を考えている保護者に向けて、具体的な手続きや費用、また新規性などの留意点について、専門家にガイドしてもらった。

小中学生のお子様でも、自分で思いついた新たな発明（技術的アイデア）の特許化することは可能です。特許を取得した商品を事業化したケースもありますし、そこまでいかなくとも、小中学生時代に特許を取ったということは一生の記念になるでしょう。

特許を取得するためには、特許庁に対して出願手続を行い、審査を受けて特許査定を得る必要があります。発明者が未成年の場合、原則的に保護者の方が法定代理人として出願することが必要ですが、発明者や特許権者はすべてお子様本人になります。特許証にも本人の名前がクレジットされます。実際に出願書類を作って特許庁に出願し、審査段階で特許庁審査官とのやり取りを行うのは、弁理士に委任するのが現実的です。

小中学生は通常は住民税非課税者ですので、特許庁に支払う費用（通常は20万円程度）についてはそのほとんどが免除されます。弁理士費用は、弁理士との個別交渉になりますが、数十万円が目安です。期間は通常1年以上を要しますが、早期審査請求を行って半年以内に審査を完了することも可能です。

特許の対象になる発明は、技術的に壮大なものである必要はありません。空き缶の分別装置、耳を痛めない耳飾りアクセサリ、せんたくばさみの整理器具など、いかにも子どもらしい、生活に根ざしたアイデアがこれまでも数多く特許化されています。特許化のためには、たとえば単に空き缶を簡便に分別したいといった願望だけでは不十分で、どういった仕組みで空き缶を分別するのかが明確になっている必要があります。加えて、アイデアが新しく、自明なものでないこと（新規性・進歩性）が必要です。仮に自分で発想したアイデアでも、既に同じアイデアを別の人が思いついて世の中に知られていれば、特許化できません。また、自分で出願前にアイデアを公表してしまった場合も原則、新規性はなくなりますが、現在は猶予期間があるので、公表した時から1年以内であれば特許化は可能です。今までに似たようなアイデアが知られていないかの調査、もし似たアイデアがあった場合に改良を加えて改良特許を取るための助言などは、弁理士に相談されると良いでしょう。

弁理士 知財コンサルタント くりはら きよし
金沢工業大学客員教授 栗原 潔

日本IBM、ガートナー・ジャパンでSE、ITアナリストとしての勤務を経て、2005年より弁理士業務と先進IT分野を中心とした知的財産コンサルティング業務を並行して行う。寄稿・講演・ビジネス書翻訳など多数。



子どもや若年層の知財活動を支援するさまざまな取組

特許庁・INPIT（独立行政法人工業所有権情報・研修館）

小学生・中学生

- とつきようキッズページ
- 知財の教材・参考書（マンガ「知財の歴史」など）
- ジュニアイノベーションフェス
- JPOちゅーぶ【特許庁】／知財の魅力・大切さを発信

高校生・高専学生・大学生

- 知財力開発校支援事業／高校や高専の知財学習を、経費とノウハウの両面で支援
- パテントコンテスト・デザインパテントコンテスト／優秀な応募作品の表彰、出願支援

他の団体の事例

公益社団法人発明協会

- 少年少女発明クラブ／3,000人 近くのボランティアと10,000人以上の子どもたちが活動
- 全日本学生児童発明くふう展
- 未来の科学の夢絵画展 など

日本弁理士会

- はっぴょん通信
- 弁理士ウィーク／期間限定でパビリオンをオープン

北海道経済産業局

- 発明・工夫と特許の国へようこそ！／発明や特許などについてわかりやすく説明

創造性を高める

「東海大学学園オリンピック・知的財産部門」

東海大学の附属諸学校と東海大学の教職員が一体で取り組む教育プログラムで、1964年のスポーツ大会から始まり、2004年、知的財産部門がスタートしました。系列の全国14校の中高生から参加者を募り、選考を通過した生徒たちは知財の知識を学び、大学の先生など専門家の指導を受けて創造性を育み、自らのアイデアをブラッシュアップします。4泊5日の研修プログラムを組んでいましたが、コロナ禍以降、オンラインのゼミ形式を中心に行っています。研修後は、パテントコンテスト応募（高校生）や都道府県発明くふう展（中学生）を推奨しています。

（東海大学付属相模高等学校中等部・知的財産部門 土方西紀教諭）

環境問題に関心を持つ当時小学3年生の光浦更紗さんが発明した「繰り返し使えるストロー」。父の光浦健太郎さんは、特許申請の明細書を作るためメカニズムを言語化する中で、製品の多様な可能性や、経営する老舗の醸造会社の事業のヒントを発見していった。

特集

1

特許取得で学んだ

「脱・常識」で 事業も変革！

FEATURE

光浦醸造工業株式会社
代表取締役

みつうら けんたろう
光浦 健太郎さん

FEATURE

山口大学
教育学部附属
山口中学校2年

みつうら さらさ
光浦 更紗さん

2019年、小学3年生の時の夏休みの自由研究で選んだのが、環境に優しい「繰り返し使えるストロー」というテーマです。最初は、自然に還る素材でストローを作るというアイデアで、麦わら、ライスペーパー、空心菜、マカロニなど試してみたのですが、うまくいきません。そこで「プラスチック素材でも、繰り返し使えるストローを作れば、使い捨てによるごみを減らせるのでは？」と発想を変えて、丸めるとストローに

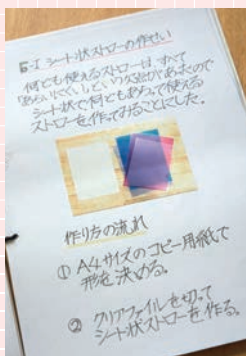
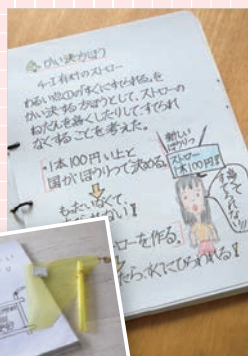
「自分の発明は世界で唯一」と
認めてもらった特許取得

なり、広げて洗えば再利用できる五角形のシートを発明しました。学校の先生に「特許を取れるのでは」と勧められて、父がいろいろと調べて手続きしてくれました。特許は「大人の社会のもの」というイメージでしたが、取得してみると、自分のアイデアが世界で唯一のものと認めてもらったようで、うれしかったです。今はオランダのバレイナ養成学校に短期留学し、夢の実現に向けて努力の日々ですが、環境問題への関心や、発明の原動力である好奇心や探究心も抱き続けたいです。（光浦更紗さん）



五角形のシートを手で巻いてストローにする。口を傷つけず、洗って乾かすことで繰り返し使える。シンプルなベルト式STROLL-01と、より巻きやすいテープ式STROLL-02がある。デザインも多彩に展開

「STROLL」の発明 ～特許取得～商品化の道のり



新規事業「STROLL」の立ち上げ発表。ネーミングの由来は「STRAW」と「ROLL」の組み合わせ

16 政令指定都市と東京 23 特別区が
共同で実施する「大都市減量化・
資源化共同キャンペーン」で配布

2019年 8月

プラスチックごみに苦しむ海洋生物のことを知って衝撃を受けたこともあり、更紗さんが「環境にやさしいストロー」の自由研究

9月

健太郎さんが山口県知財総合支援窓口を訪ねて、明細書の書き方など特許申請のアドバイスを受ける

11月

健太郎さんが親子共同で特許出願

2021年 10月

特許取得（第 6967718 号）

2023年 10月

現在



現在 22 種のラインナップで展開。無地やイラスト、名作絵画など豊富なバリエーション



「大人の自由研究」で得た 新しい気つきやアイデア

特許を取れば娘の発明の記念になるかな、と最初は軽い気持ちで、山口県知財総合支援窓口を訪ねました。シート製ストローの現物を見せると、担当の方が「この機能や構造をすべて説明してみてください」と、明細書を書くための懇切な指導をしてくれました。そして、娘が感覚的にたどり着いた私たちのメカニズムを解析し、言語化する取組が続いているうちに、形状のアレンジや関連する装置などアイデアが次々にわいてきたのです。

これはビジネスとして可能性を秘めたものだと考え、特許出願と並行してストローの商品化の準備を進めました。その際に事業の再定義の必要性も強く感じていました。当社は味噌や醤油を150年以上も作り続けていますが、近年はドライレモンを使ったレモンティーやフレーバー甘酒などが売れ筋の一つで、そこにストローまで新しく加わると、伝統産業として築いてきた信頼が揺らぐのではと懸念したのです。そこで「私たちは新しい食体験と、豊かな食文化の創造に取り組む会社です」と明確な姿勢を示せるようにリブランディングを進め、「味を、人を、あわせる、」という企業理念も策定しました。



光浦醸造工業株式会社

所在地 / 山口県防府市大字台道3532-2
創立 / 1949年(創業1865年)
事業内容 / 味噌・醤油・紅茶及び
その他関連加工食品の製造販売
従業員数 / 25人 URL / <https://mitsuura.jp/>

2021年に、「STROLL」のブランド名でストローを販売開始しました。一般ユーザーだけでなく、ノベルティや広報グッズのような用途での反応が良く、使い捨ての対象だったストローをいわば「メディア」にして、新しい価値を付加できたと思っています。

娘の発明を特許化し、商品として世に出す過程で得た大きな発見は、「(やっではいけない)」とされていることこそ、アイデアの源泉」というものです。この「脱・常識」の意義は味噌作りでも同様ではと考え、長年慣習的に行われてきた製法を洗い直してみたところ、思いもよらない新しい発想を得て、現在その本格的な研究を進めているところです。STROLLの開発は、娘の自由研究を引き継いだ、「大人の自由研究」として取り組んできましたが、さらに興味深い次章が待っているようで、今後が楽しみです。(光浦健太郎さん)

FEATURE

東海大学付属
相模高等学校
中等部3年

か で な も も か
嘉手納 杏果さん

特集

2

数々の特許取得を支えた

「人の役に立ちたい」想いと 周囲の理解やサポート

小学校時代から、数々の発明で特許を取得し、さまざまな賞を受賞している嘉手納杏果さん。その原動力となる想いと、彼女を支えて成長を手伝う周囲のさまざまなサポートをたどる。

自分の発明が世に出て
人の役に立つ光景に感動

幼稚園の頃から工作が大好きで、小学3年生の時に磁石を利用して作った「絡まないハンガー」で、最初に特許を取りました。中学生になるとニュース番組を見る習慣もつき、世の中にはこういう困りごとがあるのか、そこで自分が役に立てることはないか、と考えるようになりました。コロナ禍で特許を取った「テリッパ」は、マスクをマグネットクリップで服やバッグに留めて、置き場

所に困らないようにするもので、地元のサッカークラブのSC相模原さんに商品化していただきました。自分の発明がスタジオアムのグッズ売り場に並び、お客さんが手にとる様子を見て感動したのを覚えています。誰かに喜んでもらうのが一番のエネルギーである私にとって、特許取得は国に認めてもらうことであり、周囲の人たちへの恩返しでもあるので、励みになります。

直近で特許を取ったのは、浅瀬に生息するアマモという海草の育成の研究です。アマモは、魚や海の生き物の産卵場として生態系を豊かにする「海のゆりかご」で、大気や海中のCO2を吸収する貴重な存在。ただし養殖が難しいうえに、環境破壊で数を減らしているの、何かできないかと調べ始めました。最初は全然答えが見えませんでした、



テリッパはSC相模原とのコラボで商品化。杏果さんがスタジオアムで製品をプレゼンした

アマモの種につける発芽水を15種類試したり、適切な水温を探して実験を繰り返したり試行錯誤を続けて、自然環境では冬限定で1〜3%しか発芽しないアマモを夏でも最短6日で88%の確率で発芽させられる条件に1年以上かけてたどり着くこ

嘉手納杏果さんの主な発明ヒストリー

絡まないハンガー

(特許第6820999号など3件)

小学3年生の時に、磁石を利用して、洗濯物の取り込み時などに絡まないようにしたハンガーを発明

しまるん

(特許第6850389号)

チャック袋のチャック部分に粉が付着しないよう、長い内袋を取り出して折りたたむ。第80回全日本学生児童発明くふう展 内閣総理大臣賞(2022年)、世界青少年発明工夫展 2022 金賞 ほか



テリッパ

(特許第6903213号)

外したマスクを2つに折り、服やバッグにはさんで留めるマグネットクリップ。2022年7月、地元のSC相模原とのコラボにより「SC相模原オリジナルマスククリップ」として商品化

2018年

2021年

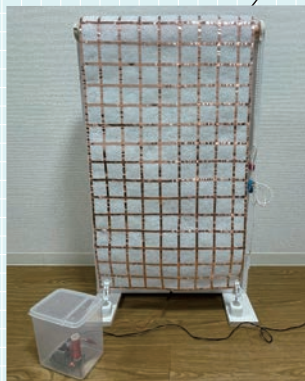
2022年

2023年

現在

花粉対策用不織布
ロールスクリーン

不織布製のロールスクリーンをテスラコイルで帯電させて屋内に侵入する微粒子を吸着。第81回全日本学生児童発明くふう展 文部科学大臣賞(2023年)、世界青少年発明工夫展 2023 金賞 ほか



アマモの発芽・育成装置及び方法

(特許第7417785号)

海草のアマモを養殖できる装置と発芽水で、海洋環境の改善を目指す。第82回全日本学生児童発明くふう展 恩賜記念賞(2024年)、神奈川県青少年創意くふう展 県知事賞(2023年)

とができました。ただ、実際に海のアマモが増えてはじめて自分の発明が役に立ったといえるので、まだ完結したとは考えず、研究の質をさらに高めていきたいと思っています。(嘉手納杏果さん)

発明を通じて社会とつながり
成長を続ける姿に頼もしさ

「絡まないハンガー」の新しい発想に感心し、いろいろな特許事務所に相談に行ったところ、幸運にも熱心に話を聞いてくれる女性の弁理士さんとの出会い、2020年3月に特許を取得することができました。杏果は成長とともに、「家族だけでなくいろいろな人の役に立ちたい」と口にするようになって、それが最近の発明のテーマにも反映されているように思います。「テリッパ」は、地元の役に立つてほしいと相模原市役所さんに1000個寄贈したところ、子ども食堂などの施設で無料配布してもらえました。その様子が報道されて、テリッパを製造してくれた株式会社三洋さんを通じてSC相模原さんから打診があったというのが、商品化の経緯です。「花粉対策用不織布ロールスクリーン」の発明では、北里環境科学センターさんが微粒子の吸着性能確認に協力してくれたデータを、世界青少年発明工夫展の資料や審査に活



マスクを折って服やバッグにはさんで留める「テリッパ」は、コロナ禍で生まれた発想

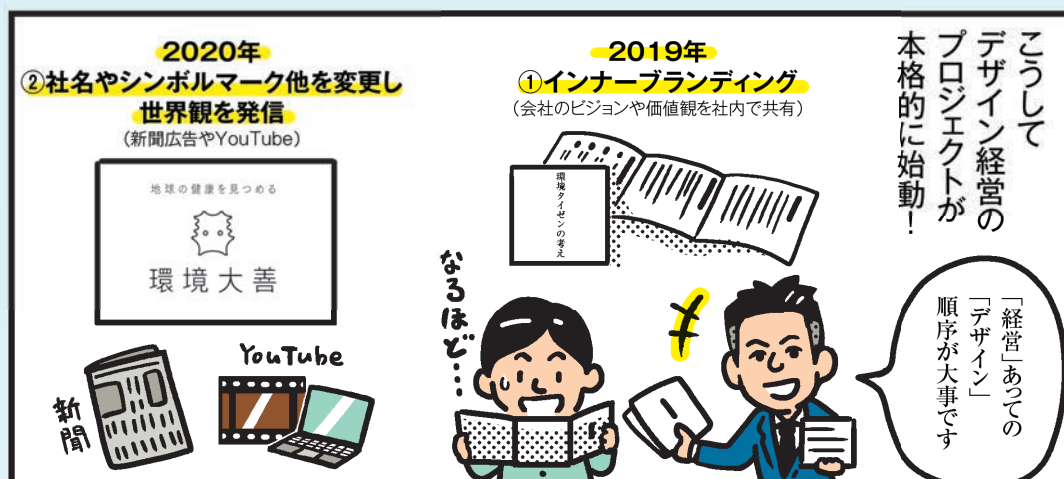
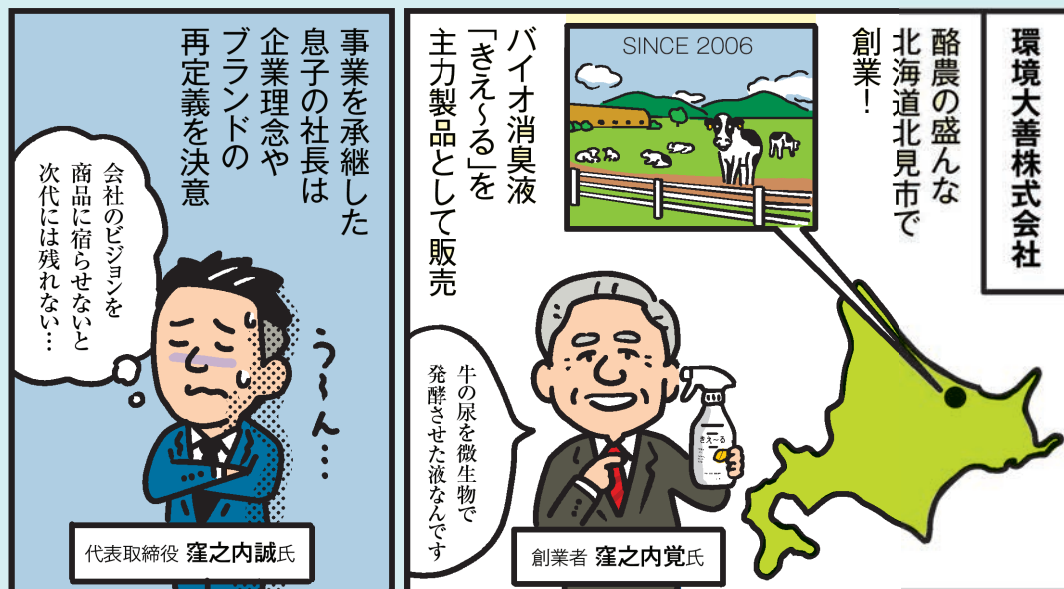
用しました。実験室などの施設を見学したことは、杏果にとって知的刺激に満ちた体験だったようです。またアマモの育成の研究では、「海をつくる会」という横浜の市民団体や、大学の先生方の指導を仰ぐことができました。発明をきっかけに、優れた専門家との出会い、商品を使ってもらって社会とのつながりを深めることで、本人がその都度成長している様子を頼もしく見守っています。(嘉手納杏果さんのお母様)

知財戦略

どうやって取り組んでいるの？

Vol. 13
≪ 環境大善株式会社

知財戦略に積極的に取り組む企業をピックアップ。
事業承継を機に実施した、デザイン経営への徹底した取組などが評価され、
令和6年度の知財功労賞(経済産業大臣表彰)を受賞した、
環境大善株式会社をご紹介します。



INTERVIEW

代表取締役 窪之内 誠氏

デザイン経営に取り組む多くの企業は、すでに何かしらのブランドイメージや製品デザインが存在するところからスタートします。その資産を生かしつつ、新しい局面に対応する「編集」「アレンジ」の力が大切だと思います。



PROFILE

環境大善株式会社

所在地／北海道北見市端野町
三区438-7
<https://kankyo-daizen.jp/>
設立年／2006年
業種／消臭液や土壌改良材の
開発・製造・販売
従業員数／25人(2024年6月時点)



2021年「きえ〜る」のデザインリニューアルと同時に、商標権を取得

リブランディング前との比較で **70%UP!**

(2018年1月期〜2023年6月期)

Sシリーズ Dシリーズ Hシリーズ

オシャレなパッケージ♡

「きえ〜る」や「発酵経営」など積極的に商標を取得

権利化をサポートします一緒に頑張りましょう!

外部の専門家チーム (弁護士・弁理士)

① 知財戦略

さらに二つのポイントで事業を強化!

ユニフォームも一新!

研究開発 知財戦略

こうして地元の酪農家・大学・消費者が参加してつむぐ

サステナブルなアップサイクル型循環システムが機能し始めました

廃棄される資源に新たな価値を与えてアップサイクル「アップサイクル型循環システム」

「きえ〜る」の効果をより科学的に探究

土壌改良材や水質改善材としての価値も注目されています

●北見工業大学と共同研究講座を開設

●北海道大学とも共同研究スタート

●自社内に「土、水、空気研究所」開設

大善の「善」の文字をモチーフとしたシンボルマーク 善玉菌の大善君

このつづらな瞳が地球の健康を見つめていく

そしてコーポレートスローガンの「地球の健康を見つめる」をこれからも実践し続けます!!

今後は経済成長著しい東アジア・東南アジアへの展開をより本格化させます!

アイデア・出願・事業展開・海外展開 etc.

インビット

知財支援はINPITにおまかせ！

無料で
アドバイス

INPIT知財総合支援窓口って？

「INPIT知財総合支援窓口」は独立行政法人工業所有権情報・研修館(INPIT)が、47都道府県に設置している地域密着型の相談窓口です。中小企業をはじめとした企業の皆さまの経営課題解決に向け、自社のアイデア、技術、デザイン、ブランドなどの“知財”の面から支援を行います。

経験豊富な支援担当者が、まずは“経営”と“知的

財産”の課題を把握し、事業・知財戦略の策定助言や、それらの戦略に合った知財活動の方向性をご提案。専門性の高い課題などについては、弁理士・弁護士といった専門家やよろず支援拠点をはじめとする関係支援機関と連携し、効率的・網羅的に解決を図ります。相談は窓口での対面相談に加え、訪問、電話、メール、WEBでも受け付けています。



日本の中小企業経営を支えたい
あなたの会社にも他者に負けない「何か」があるはず。その「何か」を支援してみませんか？

INPIT REPORT | VOL.13 | INPITがお手伝いした事例をご紹介します

[株式会社ISOコーポレーション]

「柔らかさを持続する餅」の上市に向け
知財で多角的に支援！

支援のプロセス

和カフェ「抹茶文庫」の飲食店経営をはじめ、電子レンジでつくたてのような餅が作れる「もちもちのおもちキット」など、餅に関するユニークな食品を開発・製造する株式会社ISOコーポレーション。同社が食品工業技術センター（名古屋市）と岐阜県食品科学研究所（岐阜市）から助言を受けて開発を進めていた「柔らかさを持続する餅」の知財化について、INPIT愛知県知財総合支援窓口では愛知県よろず支援拠点からの紹介を機に支援を開始しました。

支援の成果

水と餅の粉末を混ぜたものを電子レンジで温めて生餅を作る「もちもちのおもちキット」を商品化第1号として上市したの続き、もち米をはじめ原材料に一切の添加物や保存料を使用しない「おもちかすてら」を発表しました。同商品は、農林水産省INACOMEビジネスコンテスト2023における審査員特別賞や、2023年度愛知のふるさと食品コンテストの優秀賞・愛知食品産業振興協会会長賞を受賞しています。現在は、国内の上市にとどまらず、海外展開に向けINPIT知財戦略エキスパートも活用しています。

PROFILE

株式会社ISOコーポレーション

所在地／愛知県名古屋市守山区
松坂町114-19 TEL／0587-51-2110
URL／https://omochi-kakumei.com
設立年／2017年
業種／製造業 従業員数／8人



まず、特許の基礎知識やノウハウなど秘匿すべきポイントをレクチャー。その結果、餅の粉末に関する特許を出願することになりました。次に、INPITのブランド専門家や愛知県よろず支援拠点と連携し、商品パッケージの作成をサポートしました。さらに、知的財産を活用した企業のビジネスを評価する「知財ビジネス評価書」も利用し、販路開拓や新商品開発のための専門家の活用といった面で金融機関ともスムーズに連携することができています。

KEYMAN'S VOICE



株式会社ISOコーポレーション
代表取締役 磯 喜久様より

皆さまの知恵をお借りしながら昔ながらの食材である「餅」をブラッシュアップしています。開発に3年をかけた「おもちかすてら」は、食品コンテストなどで賞を頂くことができました。INPIT愛知県知財総合支援窓口にはさまざまな面でご支援いただき感謝申し上げます。



INPIT愛知県知財総合支援窓口
寺尾 千賀子様より

「餅」に対する情熱あふれる同社には、INPIT知財総合支援窓口の支援メニューをうまくご活用いただき、餅の企業として大きく成長を遂げていただければと思います。今後の展開が楽しみです。



「知財ポータル」の
支援事例はこちら

INPIT知財総合支援窓口 全国共通ナビダイヤル

TEL

0570-082100 (平日 9:00 ~ 17:00)

※全国47都道府県に設置されたお近くのお窓口におつなぎいたします

INPIT知財総合支援窓口 知財ポータル

WEB

<https://chizai-portal.inpit.go.jp>

>> GO TO WEB

注目のあの話題を徹底解説!

COORDINATOR
EXPLANATION

知財 TOPICS

特許や意匠、商標など知財にまつわる注目の最新ニュースを、専門家が分かりやすく解説!
今回は、「近大マグロにおける知財活用」と、近畿大学のブランディング戦略との関係について掘り下げます。

TOPIC

「近大マグロ」のさらなる認知拡大を目指し、
近畿大学と大学発ベンチャー企業が販売開始
近大マグロの缶詰をモチーフにした文具系新商品が登場

近

畿大学と、近畿大学発ベンチャー企業の株式会社アーマリン近大は、登録商標でもある「近大マグロ」の缶詰をモチーフにした文具缶「近大マグロ缶」を、2024年5月16日に販売開始した。本物の缶詰のようなデザインの缶の中には近大マグロ型のゼムクリップとメモ帳が入っており、缶も小物入れとしてリユースできる。また、缶には近大マグロの完全養殖についての情報が記載されていて、面白さの追求だけでなく、近大マグロについての理解を深めるきっかけとなることを目指す。

養殖魚専門料理店「近畿大学水産研究所」の各店舗や近畿大学施設内、オンラインショップで販売。学内イベントなどでのノベルティとしても活用する。多くの全国紙・地方紙・業界紙で紹介され、販売開始から1カ月で約7000個の出荷実績を記録するなど、想定以上の好反応を見せている。



QUESTION

ここが知りたい!

「近大マグロ」にまつわる知財が
大学のPRに果たす役割は?

近畿大学水産研究所は、1970年からクロマグロの完全養殖に向けて研究を始め、2002年に世界で初めての完全養殖に成功した。その後は研究を続けつつ、直営の養殖魚専門料理店など事業化も積極的に推進。知財関連では、養殖装置・配合飼料・水温制御システムなどの特許取得（第4005993号ほか）だけでなく、

2006年には「近大マグロ」の文字を含む商標を登録し（第4933272号）、製品化やライセンスなど活用の幅が広がった。また、「近大マグロ」は、近畿大学水産研究所で生産、または同様の方法でトータルに生育過程を管理されたマグロしか名乗ることができないので、品質保証の面でも機能している。

ANSWER

私が解説します!



解説

学校法人近畿大学
経営戦略本部長せこう いしひろ
世耕 石弘氏

奈良県出身。1992年近畿日本鉄道株式会社に入社し、ホテル事業、海外派遣、広報業務を担当。2007年から近畿大学で入試広報課長、入学センター事務長、広報部長、総務部長を歴任し、2020年4月より広報室を管掌する経営戦略本部長を務める。

「近大マグロ」は、建学の精神「実学教育」を
象徴するキラーコンテンツ

私たち近畿大学の建学の精神として、古いアカデミズムとは一線を画す「実学教育」というものがあります。研究を続ける資金は自分たちで稼ぐといった自助独立の気風が特色で、世界初のクロマグロの完全養殖も、国からの研究費に頼らず、先に成功したマダイやシマアジの完全養殖の収益を土台に実現させたものです。そうした歴史があるので、近大にとって「近大マグロ」とは、ユニークな研究成果というだけでなく、自分たちの根幹にある建学の精神のシンボルです。

近大の立地する東大阪は、中小企業や町工場がひしめく、下町情緒の豊かな街。近大のブランディングも、庶民的な雰囲気や親しみやすさを重視しています。絶滅の危機にひんしているマグロを救うという意義だけでなく、市民がおいしいマグロを安く食べられるための技術を確認したという点に、近大らしさがあると思います。

実は、私が近大の広報業務に携わるようになった2007年の時点では、完全養殖の成功から4年以上が経過した近大マグロは、学内では旬を過ぎたニュースと見なされ、学校案内などにあまり使われなくなっていました。しかし大学の広報・コミュニケーション戦略のターゲット層である

受験生は毎年大幅に入れ替わりますから、常に新鮮でユニークなトピックとして感じてもらえるはずだと考えて、再度フィーチャーする方向に舵を切ったのです。研究であれスポーツであれ、「〇〇大学といえば●●」という分かりやすいアイコンを掲げられる大学ばかりではない中で、近大マグロのようなキラーコンテンツを持つことができたのは非常に恵まれていたと思います。

学内には、産学連携の窓口として2000年に設置された「近畿大学リエゾンセンター」という機関があります。企業や他の大学との共同研究をコーディネートし、その成果として生まれる特許や商標などの知的財産の管理も一括して行います。近大の産学連携の特色の一つに、大企業ばかりでなく、地元の中小企業からの相談にも積極的に対応していることがあります。その結果、受託研究の件数は現在7年連続で全国1位となっており、技術相談も年間約300件のペースで推移しています。中小企業は判断のスピード感で勝り、商品化につながるケースも多く、これらの事例は学校としての研究成果だけでなく、学生の就職活動の格好のツールなどにもなります。こうした点にも「実学教育」の理念が反映されていると考えています。

イラストレーター

マンガで
わかる
知財!

パパンがゆく!



イラストレーター
かしわばら しゅうてん
柏原昇店さん

コミカルなタッチが特徴で、マンガも描けるイラストレーターとして広告・書籍・blogなどで活躍中。自身をクマのキャラ「パパン」に見立てて、難しい物事をわかりやすく伝えるのが得意。
X (旧 Twitter) : @kbst2

「新メディア『わたしのStoryMark』に込められた想いとは？」

特許庁デザイン経営プロジェクトチームは、社名や商品などの名前に込められた想いを紹介して、商標登録への理解を深められるメディア「わたしのStoryMark」を開設しています。
その狙いや今後の展望を、パパンが取材します。



※2: 2024年7月現在

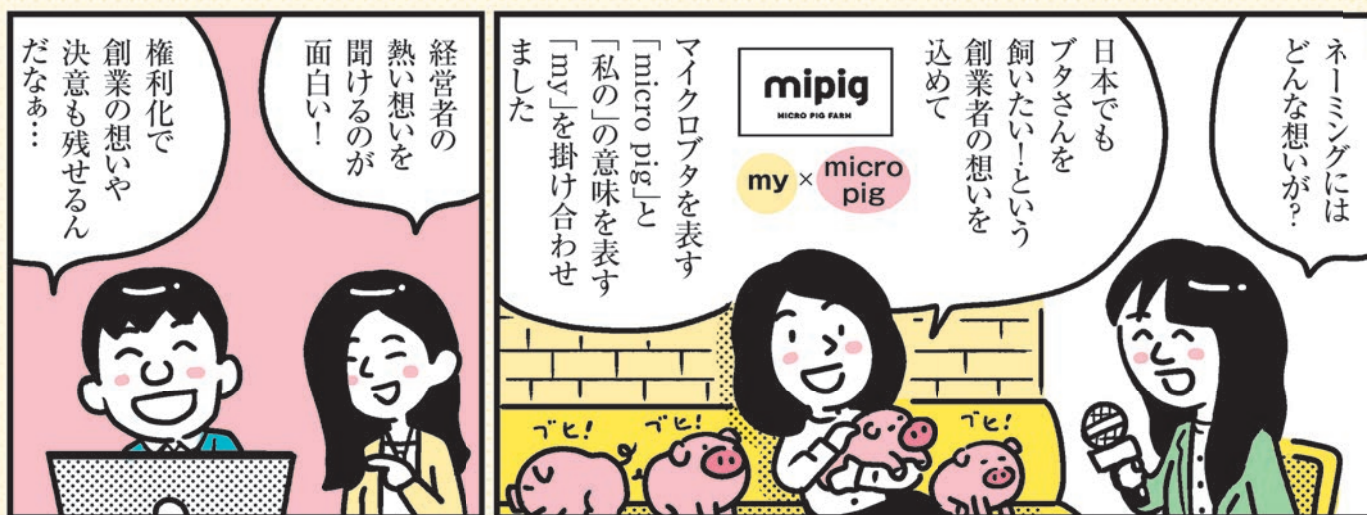
※1: デザイン経営プロジェクトチーム内 中小企業支援チーム



Check 詳細はこちらから

「わたしのStoryMark」～名前に込められた想いのストーリーを紹介するメディア～ / 特許庁HP





〔特許庁からのお知らせ〕

1

イノベーション創出の促進を狙うマネジメント層の方必見！ 「知財エコシステム活性化のカギとなる女性活躍事例」を公表します

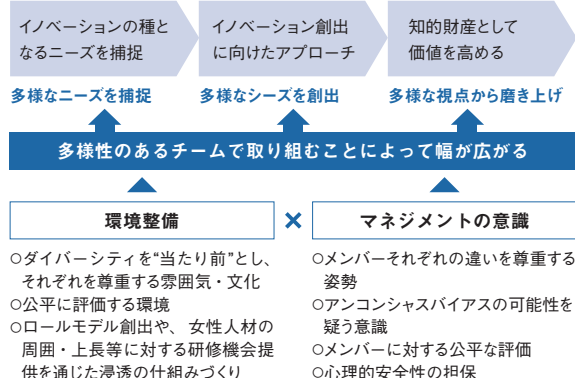
持続可能な経済成長を実現するために、女性の活躍をはじめとしたダイバーシティの推進が求められています。そうした中で、特許庁では、知財エコシステムにおける女性人材の現状と課題を整理し、知財エコシステムにおける多様性と包摂性を推進するために、女性の活躍を促進するための環境整備の在り方の検討を行い、「Diversity & Innovation～知財エコシステム活性化のカギとなる女性活躍事例～」として取りまとめました。研究者や知財専門家など、知財エコシステムの中で活躍する女性人材のストーリーを取りまとめるとともに、そうした人材をマネジメントする立場にも着目し、組織においてジェンダー等のダイバーシティを高めることの意義や効果を紹介しています。



＜＜ 詳細はこちらから ＞＞

イノベーション創出の促進を狙うマネジメント層の方必見！
「知財エコシステム活性化のカギとなる女性活躍事例」を
公表します／経済産業省

イノベーションに対するダイバーシティの意義



2

「中小企業等海外展開支援事業費補助金」の受付を開始しました

中小企業等の戦略的な外国出願を促進し、知的財産権を活用した海外展開を支援することを目的とした補助金です。海外への事業展開などを計画している中小企業等に対して、海外における発明、実用新案、意匠または商標の権利化のための出願（出願手続）、特許出願に対して外国特許庁から発せられた拒絶理由通知に対する応答（中間応答）、特許出願に対する出願審査の請求（審査請求）に要する経費の一部を交付します。



＜＜ 詳細はこちらから ＞＞

中小企業等海外展開支援事業費補助金／
発明推進協会



助成の対象となる経費

※交付決定前に着手していないことが条件です。

- 外国特許庁等への納付手数料
- 現地代理人費用
- 国内代理人費用
- 翻訳費用



申請書受付期間

＜出願手続＞

- 第1回 2024年5月30日(木)～6月14日(金)12:00 ※受付終了
- 第2回 2024年8月19日(月)～8月30日(金)12:00
- 第3回 2024年11月18日(月)～12月3日(火)12:00

＜中間応答・審査請求＞

- 2024年5月30日(木)～2025年2月7日(金)12:00

3

コピー商品撲滅キャンペーン カワゾちゃんの最新動画が公開されました！

特許庁広報室の公式YouTubeチャンネル「JPO ちゅーぶ【特許庁】」でおなじみのカワゾちゃんの最新スペシャルマンガムービーが公開されました。公式通販サイトそっくりの「なりすましサイト」によるコピー商品の販売など、ますます巧妙になるコピー商品の販売手口にだまされないように、カワゾちゃんが「絶対買わんぞ！」と警鐘を鳴らします。

「コピー商品撲滅キャンペーン」とは？

コピー商品（商標権などの知的財産権を侵害する違法品）による消費者の被害は、手口を変えながら今なお発生しています。このようなコピー商品を撲滅するには、啓発活動を通じて消費者の意識を醸成させることが重要です。そのため、特許庁では消費者に向けて「コピー商品撲滅キャンペーン」を実施しています。



CHECK!

「絶対買わんぞ！コピー商品
カワゾちゃん」スペシャル
マンガムービー2 short ver.



CHECK!

「絶対買わんぞ！コピー商品
カワゾちゃん」スペシャル
マンガムービー2 long ver.

知財が創る未来

ふくしま イノベーション

企業ファイル

2024年1月、特許庁は福島県及び公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構と、知的財産の保護及び活用に関する連携協定を締結しました。知財で福島の新しい時代を切り開く企業やプロジェクトを紹介します。

FILE #01

合同会社良品店

代表社員／渡邊洋一
住所／福島県双葉郡富岡町
大字上郡山字関名古144-3
従業員数／2名
URL／<https://panel-log.com>



新発想の木造建築構法で

地域経済や林業を活性化

福島発の木造建築構法「タテログ」が、いま注目を集めています。タテログ推進協議会の中核を担う、合同会社良品店代表社員の渡邊洋一さんに話を聞きました。

「タテログは、木材（ログ）を縦に並べてビスで固定したパネルです。接着剤不使用で人体や環境に優しく、リサイクルも容易。工期短縮やコスト削減といった利点のほか、専門的な技能を必要としないため地元の工務店でも自由に施工できます」

誕生の経緯もうかがいます。

「東日本大震災の時、〈寄付された角材をつなげてパネルにすれば建材になる〉という発想から生まれた製品です。芳賀沼氏（はりゅうウッドスタジオ）が発案し、当社

が研究開発を重ねて、当社とも関係が深い株式会社芳賀沼製作が普及を進めていましたが（芳賀沼製作及びはりゅうウッドスタジオは「縦ログ」、良品店は「パネルログ」で商標取得）、2023年のタテログ推進協議会設立以後は、〈タテログ〉の統一ブランドで展開しています。私たちが実現したいのは、国内の林業の振興。木材を多く使用すれば資源サイクルを促進できますし、原木・加工・生産・施工までつなげる事業モデルは、森林資源の豊かな福島県はもちろん、地域活性化の枠組みとして全国で応用可能だと考えています」

研究開発では、福島イノベーション・コースト構想推進機構の支援制度などを活用。



1 タテログの施工風景。構法や機械で、複数の特許（芳賀沼製作：第6522055号ほか）を取得。
2 富岡町内にもタテログ採用の建物が登場。浜通りの新時代の象徴として期待されます

こちらも
チェック！



とっきよ vol.56
福島
イノベーション
最前線

POINT

タテログの全国展開と営農型太陽光発電に期待

タテログ推進協議会には全国の工務店や設計事務所から関心が寄せられており、日本全国、さらに海外への展開が今後のテーマ。リーズナブルな価格のライセンス契約でネットワークを広げる展望です。手軽に使えることを重視した構法ゆえ、品質の担保やビジネス展開には知財戦略が不可欠と渡邊さんは語ります。また、大きな可能性を秘めるプロジェクトが、営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）。現在、パ

ネル下の農地に太陽光を均等に当てる仕組みの実証実験中です。従来の営農型太陽光発電施設では、パネル下の光量が乏しくなり、作物が育ちにくいケースもありましたが、成功すれば、作物の種類やパネルの設置面積に広がりが出ると期待されます。



写真提供：合同会社良品店



とっきよ Vol.61

発行：2024年7月30日 制作：特許庁広報室
【お問い合わせ先】03-3501-6792
（特許庁広報室直通 平日9:00～17:30）
【E-Mailアドレス】PA0270@jpo.go.jp

WEB版も
チェック！



※バックナンバーも
ご覧になれます

特許庁の広報誌「とっきよ」に関する
アンケートにご協力ください



アンケートにご協力いただいた方には、
次号広報誌（vol.62）を送付いたします。

「とっきよ」
アンケート

知財と体にうれしい 知財セレクション

社会で日々生まれる問題や
ニーズの解決には、
実は多くの知財が貢献しています。
私たちの未来を切り開く
グッドアイデアをセレクトしました。



今回の知財 | VOL.13

立ったまま良質な睡眠が取れる オフィス空間用の仮眠ボックス

構造体及び睡眠用筐体(特許第7273496号)など



PROFILE

広葉樹合板株式会社
北海道旭川市東鷹栖東2条2丁目
72 URL / <https://www.koyoju.co.jp>
71年 業種 / 製造業
39人

[COMPANY]

広葉樹合板
株式会社

[PRODUCT]

仮眠ボックス
「giraffenap」



ベッドの約半分のスペースに設置できる、立ったまま寝る仮眠ボックス。設備の増強や工事の手間もほとんどなくオフィスに導入可能。近未来をイメージしたデザインで高い防火性能と静音性を有する「スペースシア(SPACIA)」と、空気清浄システム(CUSP-GEM)を備える和風デザインの「フォレスト(FOREST)」の2パターンが用意されている。

日本人の睡眠環境を改善 開放特許を活用した新製品

世界的に見て、睡眠時間が短いといわれる日本人。1日の睡眠が7時間を下回る人が実に7割近いという調査結果もあり^{*1}、日本人の睡眠問題をテクノロジーで改善しようとする動きも盛んになってきています。今回紹介する「giraffenap」(ジラファナップ)もその一つ。北海道旭川市の広葉樹合板株式会社が製造・販売を行っています。

「giraffenap」はオフィスに設置可能な仮眠ボックス。頭・お尻・すね・足裏の4カ所を支えて、立ったまま睡眠を取れます。20分程度仮眠することで、疲労や集中力が回復し、仕事のパフォーマンスが向上するんです」と話すのは同社代表取締役の山口裕也さん。

開発のきっかけは、2021年に開催された北洋銀行主催の知財ビジネスマッチングイベントへの参加でした。そのなかで、山口さんは株式会社イトーキが持つ開放特許「人体収納用構造体及び睡眠用筐体」のことを知ります。もともと日本人の睡眠問題に関心があった山口さんは製品化への可能性を感じ、ライセンス契約を打診。翌22年7月に調印式を行い、製品化に向けた研究・開発がスタートしました。

「さまざまな体格の人が利用できるように、体を支える器具の位置を調

整できる昇降機能を取り付けたのですが、ベストな角度や位置の調整に四苦八苦しましたね。『安全で心地よい』ということが何よりも大切なので、転倒するリスクは絶対に避けたいです」と山口さん。また、開発に際して北海道大学と台湾の国立成功大学との共同研究にも取り組み、立ったまま寝た場合に睡眠段階2(軽い寝息をたてる程度の睡眠状態)まで到達し、その状態を30分以上継続できることが実証されました。あえて立ったまま眠ることで、熟睡しすぎず、素早く仕事に復帰できるということです。

試行錯誤を経て、giraffenapは昨年8月に製品を発表、今年1月から受注生産を開始しました。「皆さん、はじめは立ったまま寝ることに懐疑的なのですが、予想以上にリラックスできて驚いたという声が多いです」と山口さんは反響を話します。製品化に合わせて、商標登録や、内外装デザインの意匠登録も実施。PCT国際出願も進め、世界進出を見越した知財戦略を行っています。

「眠気を感じた時に、我慢することなく堂々と仮眠を取れる社会になってほしい。giraffenapがその一助になればと思います。将来的には、駅ビルや空港などの交通機関への設置も積極的に進めていきたいです」と山口さんは展望を語ります。